

平成 24 年度第 5 回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【開 催】

開催日時 平成 25 年 2 月 16 日（土）14：00～16：00

開催場所 緑保健福祉センター大会議室

出席者 委員 19 名中 16 名出席、手話通訳者 2 名
事務局 7 名（緑保健福祉センター長、高齢障害支援課 2 人、
社協緑区事務所 2 名、市地域福祉課 2 名）

【次 第】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - (1) 平成 24 年度緑区地域福祉計画の達成状況について
 - ①報告事項 ・各委員より報告
 - ②協議事項 ・各小委員会での協議の報告
 - (2) 平成 25 年度に向けて
- 4 その他
- 5 閉会

【議事及び質疑要旨】

議題（1）平成 24 年度緑区地域福祉計画の達成状況について

中村副委員長の進行により各委員から活動報告があった。

①報告事項

主な発言内容は以下のとおり。

（中村副委員長）田宮副委員長から報告をお願いします。

（田宮副委員長）チラシを配布しているが、3 月 2 日の午後におゆみ野まちづくりフォーラムを行う。

（山田委員）おゆみ野地区部会の報告を配布している。ふれあい・いきいきサロンや子育てサロン、広報、障害者関係事業、ボランティア活動をほぼ目標どおり達成した。子育てサロンでは若い母親の悩みを聞いている。障害者関係事業は障害児やその家族に流しそうめん等で楽しんでもらうイベントを開催できた。泉谷中学校とも連携している。ボランティア委員会は委員の自宅から有吉公園までの清掃活動を年 4 回行っている。近隣にある高齢者施設のけやき園に入園者のサポート活動も行っている。

（松戸委員）避難所運営委員会を最優先課題として取組んでいる。おゆみ野には 11 箇所の避難所が設定されている。そこに避難する世帯数は 6,883 世帯になる。自治会に所属している世帯数になる。土気ではマンションの管理組

合が自治会連協に入れるようになってきている。おゆみ野でも実現すれば加入率は上がることになる。次に力を入れているのは見守り活動である。2月6日に土気で活動している団体を視察する予定でいたが雪で延期することになった。おゆみ野地区部会長と相談を続けているが、連協の自治会長達に説明しても浸透しないところもある。2,3箇所の自治会をピックアップしてモデルケースになってもらおうと思っている。地区部会の協力も必要になってくると思う。

(中村委員) 502 地区民生委員では避難所運営委員会について説明したい。民生委員としては災害時要援護者の個人情報の件で問題がある。本日の資料3にも災害時要援護者の個人情報という項目があるが、慎重に名簿を取り扱っている。泉谷小学校区で最初に立ち上がっているのが民生委員も協力しなければいけないと思っている。

(曾志崎委員) 地区の福祉活動として足りないところを進めていきたいと思っている。昨年末には独居高齢者宅を訪問し慰問金配布を行った。椎名小学校6年生から米作り活動に対しての感謝を示す会を開催してもらった。

(本田委員) 他地区の人材確保の方法を後ほど伺いたい。
あいさつ運動は子供達に奉仕の心を伝えるために行っている。高齢者福祉の活動としていきいきサロンを古市場団地で月1回始めた。

(小山委員) 椎名連協としては避難所運営委員会を立ち上げようと話が出ている。来年度から取組むことになった。避難所では駐車場の場所やペットのこと、病人への対処など考えておかなければいけないことがたくさんある。旭市の避難所ではトイレの問題なども出たという事例を聞いた。

(中村副委員長) 移送サービス事業では目標として140名の会員募集を掲げていたが、130名程度に終わる。収支黒字化についてはほぼ達成できる見込みで進んでいる。曜日のバラつきについては地域的に木曜日が個人病院の休診日なので利用者が少ない状況が続いている。

(稲山委員) いきいきサロンが2箇所増えた。ふれあい食事会では利用者が増えてきたので容器を買い足す必要が出てきている。子育てサロンではお楽しみ会を開催した。11月23日にウォークラリーを雨の中開催した。参加者は少なかったが、続けようと思っている。

(齊藤委員) 管理組合を自治会として認めてもらうための要望書を3年前から市に提出しているが、色々問題がある。縦割り行政も弊害になっている。管理組合は国交省、自治会は総務省である。3年間地道に要望した結果、市長の英断で12月20日に認められることになった。全国で初めてのことであると思う。自治会の組織率がアップするはずである。避難所運営委員会は6箇所立ち上がっている。その他の避難所でも準備委員会は終わっている。まもなく運営委員会が設立されるはずである。交通問題プロジェクトは中止している。

(鳥山委員) いきいきサロンを順調に進めている。歌の指導者を招いているところもある。子育てサロンは口コミで広まっている。ふれあい食事会は順調に進んでいる。障害者施設の支援を行っている。2月23日に公民館で慰問

活動に向けての会議を行う。消費生活センターからチラシが100部ずつ民生委員宅にきたので、独居高齢者宅に手渡しで配布した。高齢者にとっても喜ばれた。

(時田委員) 501 地区では独居高齢者に緊急連絡カードを配布したので4月以降に再度確認したい。

(坂井委員) 12月1日に千葉市身体障害者連合会主催の福祉大会を開催した。評判は良かった。今年は予算の都合でできるか不安がある。今まで聴覚障害者についての問題に取り組んできた。身体障害者も含めた問題を色々話し合っていきたい。来週、千葉市聴覚障害者協会創立50周年のイベントを行う。300人くらい集まる予定である。いきいきプラザの見学に行ったが、60歳以上の方が利用している。できれば55歳以上に変えて欲しいと思った。身体障害者は60歳になると出て行くのが大変である。55歳から利用できる障害者同士のふれあいが広がると思う。

②協議事項

主な発言内容は以下のとおり。

(岡本委員長) 災害マップの小委員会については鎌取町内会のマップを参考に素案を作成した。時田委員から詳細説明をお願いしたい。

(時田委員) 12月6日に小委員会を開催した。マップの諸条件を出し合い震度7の地震を想定して作成した。震度7は家具が飛ぶこともある、屋外では壁の破損や窓の落下やブロック塀の破損も想定される。津波は10メートルのものがきても海拔30メートル以上あるので心配はない。鎌取独自として第1次から第3次まで集合場所を決めている。第1次避難場所のけやき園の防災整備状況を確認した。通電中はトイレや上水道の使用はできる。停電すると設備利用できなくなる。小委員会では井戸・発電機・炊事用具・障害者支援等をマップに盛り込むべきという意見が出た。

(小山委員) 自動販売機をマップに入れるのはどのような考えで盛り込んだのか。

(時田委員) 倒れる危険性があるので記載することにした。危険という意味である。

(坂井委員) 災害時の視点で言うと、情報補償ができれば欲しい。例えば千葉市と四街道市の防災無線の聞きやすさの違いがある。音声以外のサインがあると良いと思う。

(岡本委員長) 第3次は何のためにあるのか。福祉避難所とはなにか。

(時田委員) 第3次のゴルフ場は仮設住宅が建つと思う。福祉避難所とは千葉市と施設が協定を結んでいる。直接避難はできないが、千葉市の要望があれば福祉的処置が必要な方が避難できる場所である。千葉市のホームページをみると福祉避難所の一覧が出ている。

(矢島委員) 高齢者施設としては漠然と高齢者ではなく、弱っている方を優先的に千葉市の要望で受け入れることになる。

(小山委員) 椎名地区でも作ったが、どこまで災害マップを作るかが問題である。あまり書きすぎても問題になる。水道栓のことや公衆電話のことも書き込

んでみた。しかし情報多寡になる。特に防火用水が問題になった。古市場は緑区で一番低い場所である。井戸は使い物にならないと言われている。災害マップに何を入れるか。

(時田委員) 鎌取でも問題になった。あまり細かいことは書かないことになった。第1から第3次集合場所程度に納めた。

(坂井委員) 特に心配なことは一人暮らしの車椅子の方、また視覚障害者の場合はマップが本当に役立つかわからない。道が壊れたらマップどおり歩けないかもしれない。

(岡本委員長) こういうマップを目安として進めていってもらえればいいと思う。次の議題として見守りについて進めていきたい。4地区連協の町内会長には25年度に具体的に見守りを進めていってもらいたい。

(小山委員) どのような形が見守りなのか。具体的な形が見えてこない。

(岡本委員長) どの自治会ができるかはっきりしていない。地区連協会長には、うちの地区ではこの地区ができそうと推薦してもらい、その地区の方々と市社協の見守り活動の手引きを使って話し合いを進めていこうと思っている。

(松戸委員) 小山委員と同じで見守りについては分らない。2月6日のおおかぶ会の視察については延期になった。見守りは分らないながらも手探りで進めていくつもりでいる。3つの自治会から高齢者が多いのでやってみたいと声が出ている。

(齊藤委員) 地区連協としては日常の高齢者の見守りも重要だが、災害時の避難所運営に力を入れている。根本的なところで、地区連協会長が推進協との関わりかたがピンと来ない。推進協は事業を推進している感じがあまりしない。社協の活動がほとんどである。見守りは重要である。民生委員と情報のやりとりが徐々に出来るようになってきている。推進協でどうやるか具体的に打ち出してもらえるとやりやすい。報告会だけだと難しい。

(岡本委員長) その地区にあった進め方ができればいいかなと思っている。地区でどのように考えていくか話題にのせてもらいたい。避難所と併せて話題にしてももらいたい。

(烏山委員) 高齢者の一人暮らしは増えている。最近3人自宅内で亡くなっていた。ご近所の方が民生委員に連絡し孤独死を発見した。要支援の認定もうけていたのであんしんケアセンターも把握している方だった。もう一人は近所に気に掛けてくれている人がいた。介護保険は使ってなかった。ベッドの上で亡くなっていた。もう一人は介護保険を使っていたのでデイサービスが迎えにいったがでてこなかった。お風呂で亡くなっていた。安否確認が大切だと思う。地域によって体制が作れていくところもある。基本的には地域での個人を尊重した見守りや地域づくりをしていくのがいいと思う。社会的な結びつきが弱い中で個別化が進んでいるが推進協は色々な方が出ているので重要である。

(岡本委員長) 25年度は見守りを話題にしていきたい。

(事務局) 資料3は横浜市の災害時要援護者の条例制度に伴うパブリックコメント

の資料である。情報共有方式に8割が賛成した。横浜市では震災の対策条例を改正して方式を入れて議会に提案するようである。

(事務局) 福祉カレンダーを配布している。4月から6月分を記入して2月28日までに提出して欲しい。次の広報紙に入れることも可能になる。

委員長が閉会を宣し、第5回緑区地域福祉計画推進協議会は散会。